

地域移行を目指して

支援第七係長 橋本 輝雄

障害福祉施策の大きな動向は、入所施設での限られたエリアの中で生活を送る方向から、地域の中の家庭やグループホーム・ケアホーム等で居宅支援施策を活用しながら自立した生活を送る方向にベクトルを転換しています。

ここ数年来、どんなに障害の重い万でも「地域で自立した生活を」がキーワードになっています。

八王子福祉園でもこの障害福祉施策の動向を踏まえ、利用者の地域での自立した生活の実現に向けて積極的な取り組みを展開しています。

2000年6月に自活訓練棟「のい」を開設したのをはじめとし、その後「のいⅡ」（のい寮に所属）「Be」「らら」を立ち上げ、現在26名の利用者が3つの寮で、職員の支援を受けながら地域移行を目指して生活しております。これらの寮は、居住スペースとして空きが出た職員宿舎等を活用し、利用者の居室はすべて個室となっているため、プライバシーの確保とともに、利用者一人ひとりの独自の生活リズムへの配慮も可能であり、利用者の自己実現を支援できる体制であると考えております。

利用者の地域移行を実現する職員の支援体制として、専任の地域支援コーディネーターを中心とした地域移行推進チームを編成しており、援護の実施機関等の諸関係機関と連携のもと、着実に利用者の地域移行を推進しております。

今年の9月にも新たに1名の利用者が「らら」から地域での生活に移行しました。

「のい」を立ち上げてから8年経過し、この間に12名の方が地域へ移行され(20年11月現在)、地域の居宅支援施策や社会資源を活用しながら、自立した生活を実現しております。

地域生活を実現するためには、地域における「居住の場」と「日中活動の場」を確保することが必要です。「居住の場」は、他者と関わりながらも自分の希望する生活を送れるよう、その人らしい生活の楽しみ方を発揮できる場です。他者の生活を尊重するとともに、自分らしい暮らし方が保障されている場と言ってもよいでしょう。

「日中活動の場」は運動的な活動、芸術的な活動、生産的な活動、娯楽的な活動等様々な活動が準備されており、利用者の個性や特性を伸ばし、生活を豊かなものにする場と言えるでしょう。

地域生活に移行した際に利用者の方が戸惑うことのないように、自活訓練棟では様々な試みやサービスを提供しています。一例としては、「のい」では、グループホームやケアホームの生活を考えて毎日寮内調理を実施しています。また、日中活動の場は雰囲気作りを工夫して、利用者楽しくかつ作業や活動に集中して取り組めるような場を提供しています。

今後も都立施設としての先駆的实践 として、園内自活訓練棟の支援内容の充実に全職員一丸となって取り組んでいきます。関係者の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。



地域生活移行の取り組み

夢をかたちに…

当園利用者の方の地域移行が着実に進んでいます

「どんなに障害が重くても、地域で共に暮らす」…、世界的に市民権を得ているノーマライゼーションの思想を端的に指し示した言葉です。

37年前に当園が開設された頃には誰も想像しなかつた施設からの地域移行が、国や都の政策として提唱され、施設機能の一つとして位置づけられました。

当園も、社会の要請に応え、従来の入所支援機能に加え、この施設からの地域生活への移行を重点課題の一つとして取り組みを強化してきました。

その結果、下記の一覧表の通り、来月移行予定の方も含めると13人の方の地域移行を実現することができました。今回の紙面でも予定の方を含め3名の方のご紹介をすることができました。

皆さんの表情をご覧ください…、希望に満ちた明るい表情、仕事に取り組む真剣な表情がすべてを物語っているようです。この笑顔にすべての苦労は報われます。

これからも皆さんの笑顔のために、園の総力を挙げて取り組みの強化を図ります。

八王子福祉園地域生活移行者実績一覧

	地域生活移行者	所属	移行時の年齢	移行年月日	在園期間	愛の手帳	身障手帳	移行先	日中活動の場
1	S・Sさん(女性)	のいI	54歳	2001.2.28	25年	1度	6級	ケアホーム	就労継続支援施設
2	T・Kさん(男性)	のいI	30歳	2003.3.31	6年	2度		自宅	生活介護
3	S・Mさん(女性)	のいII	51歳	2003.9.22	28年	1度	1級	ケアホーム	就労継続支援施設
4	M・Uさん(女性) 地域生活準備型	のいI	54歳	2004.4.14	1年9ヵ月	2度		ケアホーム	生活介護
5	Y・Oさん(男性) 地域生活準備型	のいI	21歳	2005.5.31	3年	2度		ケアホーム	生活介護
6	T・Hさん(女性)	のいII	47歳	2005.6.1	27年	2度		ケアホーム	生活介護
7	M・Yさん(女性) 地域生活準備型	のいI	22歳	2006.3.31	4年	2度		ケアホーム	生活介護
8	E・Sさん(女性) 地域生活準備型	のいI	36歳	2006.5.10	10ヶ月	2度		ケアホーム	生活介護
9	T・Sさん(女性) 地域生活準備型	のいI	29歳	2006.9.30	2年5ヶ月	2度		ケアホーム	生活介護
10	M・Uさん(男性)	9棟	50歳	2007.9.30	33年	1度	3級	ケアホーム	生活介護
11	R・Iさん(女性)	らら	61歳	2008.8.31	34年	2度		ケアホーム	生活介護
12	H・Wさん(男性) 地域生活準備型	のいI	23歳	2008.11.4	2年6ヶ月	2度		ケアホーム	就労継続支援施設
13	T・Aさん(男性)	のいI	56歳	2008.12.4	36年	3度	1級	ケアホーム	就労継続支援施設

「らら」利用者Aさん 34年の施設生活から地域の暮らしに出発!

Aさんが、34年間在籍した八王子福祉園を8月31日に退園され、江戸川区のケアホーム「こころの花」での新たな暮らしをスタートしました。

2000年に地域生活移行事業を開始してから、11人目の地域移行者になります。

ご本人、ご家族、実施機関の同意に基づき個別支援計画を作成し、地域の関係機関と綿密な連携を図りながら、地域生活移行推進チームを編成し、自活訓練棟「らら」を始め園全体で取り組みを進めました。

地域の受け皿づくりにも積極的にに関わり、ケアホーム立上げ段階からNPO法人と連携・協働して開設支援や運営のサポートを実施してきました。

現在Aさんは、多くの支援者や仲間、ご家族と交流しながらご本人らしい豊かな暮らしを築いていらっしゃいます。今後も地域住民の1人として、安心して地域生活が継続できるように決め細やかなアフターケアを継続していきます。



多くの方々に祝福され出発しました。お見送りありがとうございました。

若林文洋さん(のいI)、安達隆美さん(のいI)が、ケアホームに移行します!



若林文洋さんは、11月4日、葛飾区にあるケアホーム「ゆるり」へ移行します。10月には、ケアホームに宿泊体験し、奥戸福祉館での実習を行いました。



安達隆美さんは、12月19日、練馬区にあるケアホーム「グループホーム石神井台」に移行します。

ケアホームから、公共交通機関を利用して単独で通所します。「のい」での暮らしは2年6ヶ月でしたが、地域で暮らす「大きな力」をつけたことを実感しました。

奥戸福祉館にて

自活訓練棟の日中活動

八王子福祉園の日中活動は、活動支援センターを拠点に多くのプログラムが用意されています。

また、昨年から5つのエリアに分かれた生活棟・自活訓練棟の利用者ニーズに応じた「エリア活動」も取り入れられています。

自活訓練棟エリアでは、手工芸・紙すき・リサイクル活動等のエリア独自の活動を展開しています。作業を中心とした「わくわく倶楽部」、牛乳パックの再生和紙づくりを行っている「かみ工房」、ストラップやエッグドール等、手芸品作りを行っている「のいⅡ活動」や、ペットボトル・エコキャップの回収を行うリサイクル活動など、日中活動支援員(非常勤職員)と協働し、日中活動の充実を図っています。

わくわく倶楽部

「わくわく倶楽部」の活動はビーズ製品の作成（ランプ・ランプシェード・その他小物）、手作りろうそく等を作る室内活動と、園芸作業を中心とした野外活動に分かれています。

ランプはお酒のピンをランプ台に使用し、電球を取り付けます。ランプシェードはビーズを使用したおしゃれで綺麗な作品です。

その他、季節に合わせた手作りろうそくやビーズを使った小物を作っています。

野外活動では、腐葉土や灰を混ぜて土を作り、各種お花の苗を園内に植えています。今年は野菜作りにもチャレンジしました。大きなジャガイモが沢山収穫できました。

リサイクル活動

